

多文化共生まちづくりに関する考察 ～広島市中区を事例として～

広島工業大学大学院 学生会員 ○寺岡 奈実
広島工業大学 正会員 今川 朱美

1. 研究の背景と目的

広島市は、“国際平和文化都市”として国際交流活動や国際協力事業を積極的に取り組み、外国人との交流の機会を増やしている。外国人居住者については、全国で約210万人のうち広島県には4万人程、そのうちの6割の15,902人が広島市で外国人登録を行っている。年々増加する外国人居住者に向け、広島市でも行政サービスの整備が推進されている。

広島市に訪れる年間外国人観光客は65万7千人(H26)で、日本に訪れた1,341万人中5%に当たる。訪日外国人の訪問先は、東京・大阪に集中する傾向にあったが、世界遺産に認定されて以降、広島市へ訪れる外国人観光客数は増加し続けており、2010年から見ると倍増している。また、フラワーフェスティバルをはじめ、異文化交流イベントによる訪日観光客数も増加している。

外国人観光客の増加に比べ、定住者数の変動は少ない。広島市は、外国人市民の暮らしやすさに配慮したまちづくりの推進が必要として、「広島市多文化共生のまちづくり推進指針(H18、H26改定)」を策定している。今後、身近なレベルでの相互の文化発信により、市民の多文化共生意識の高揚が望まれている。

本研究では、①今後の広島市のグローバル化を考え、②外国人居住者の利用の可能な都市施設の分布やその土地利用から外国人コミュニティーネットワークの状況について明らかにし、③国際化の為の都市形成について考察する。

2. 広島市の外国人居住者

広島市の人口は、2016年2月末で1,191,047人、その内、外国人数は16,408人である。外国人登録者数は、1984年に11,855人であったが、2000年には14,156人へと緩やかに増加している。しかしその後、2008年をピークに現在まで減少を見せている。

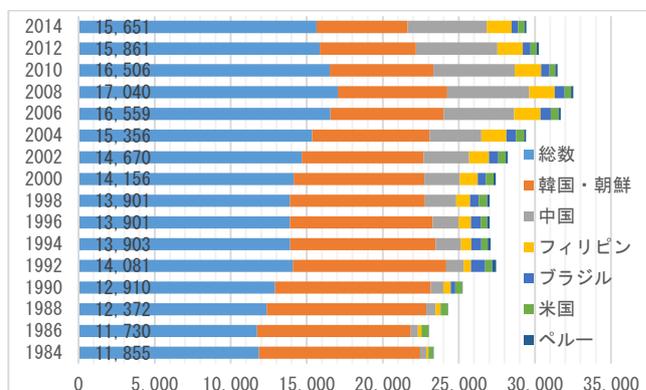


図-1 広島市外国人登録者数の推移 (住民基本台帳)

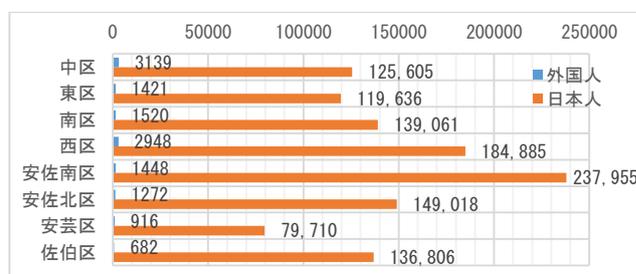


図-2 広島市地区人口 (住民基本台帳 H26年10月)

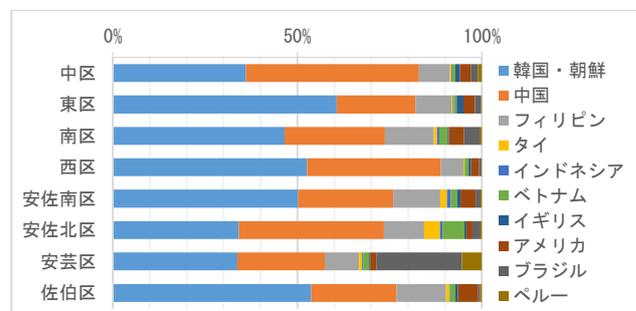


図-3 広島市地区別・国籍別外国人居住者数

広島市各区による外国人居住数を見ると、最も多く居住しているのは、中区(3,715人)である。国籍別では、韓国・朝鮮人が最も多く居住しているのは西区(1,124人)、中国人が最も多いのは中区となっていることから、出身国により居住地の選定に傾向があり、一部の区によって偏在性があると考えられる。

3. 広島市中区に集中する外国人居住者

中区の外国人数は、3,715人(H22年10月上旬)で、国籍別にみると、中国人が1,124人、韓国・朝鮮人864

人であり、東アジア人中心のコミュニティーが結成されている。図-4 は、広島市内の外国人経営者による国別飲食店数を表したものである。中国料理店・韓国料理店が多く、8 割がアジア系飲食店となっており、外国人居住状況と合わせてアジア人の集積が確認できる。

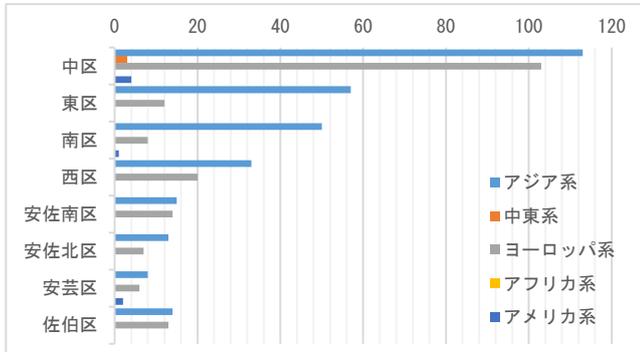


図-4 地区別国籍別飲食店数(H26年)

図-5 は、広島市内での地域住民向け異文化交流の状況を国別に示している。異文化交流が最も多く行われている地区は中区であり、アジア系の交流イベントが多数行われている。広島市中央公民館や広島市竹屋公民館、広島市まちづくり市民交流プラザ等の公共施設が利用されている。市内の公共施設は外国人居住者にあまり認知されておらず、H25 年に実施されたアンケートでは半数以上の人を利用したことがないとしている。しかし中区においては先述した施設についての認知度、利用状況ともに高くなっている。中区に居住しているアジア人については、多文化共生の地域づくりができつつあると評価できる。

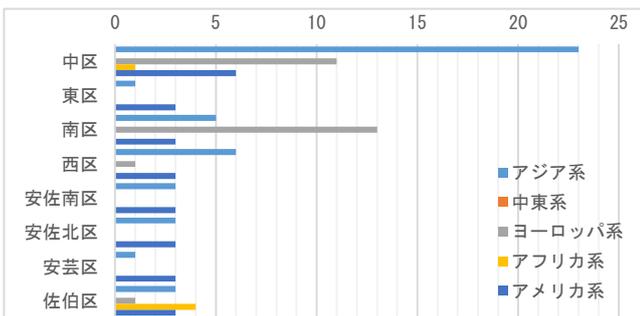


図-5 広島市地区 地域異文化交流(国籍別)

広島市中区に外国人（特にアジア系）が多く居住し、多文化共生が成り立ちつつあるということから、その土地利用と施設分布図などを確認した（図-6）。土地利用を見ると、広島電鉄やアストラムラインの路線上に居住者の集積が見られることから、公共交通機関の使いやすさが外国人居住者の定住条件の1つであ

ると考えられる。また、商業の集積の見られる紙屋町に外国人経営者による飲食店が集中している。これらの飲食店は、周辺の外国人居住エリアから徒歩1 km 圏内であり、就住密着型の歩ける地域形成がみられる。

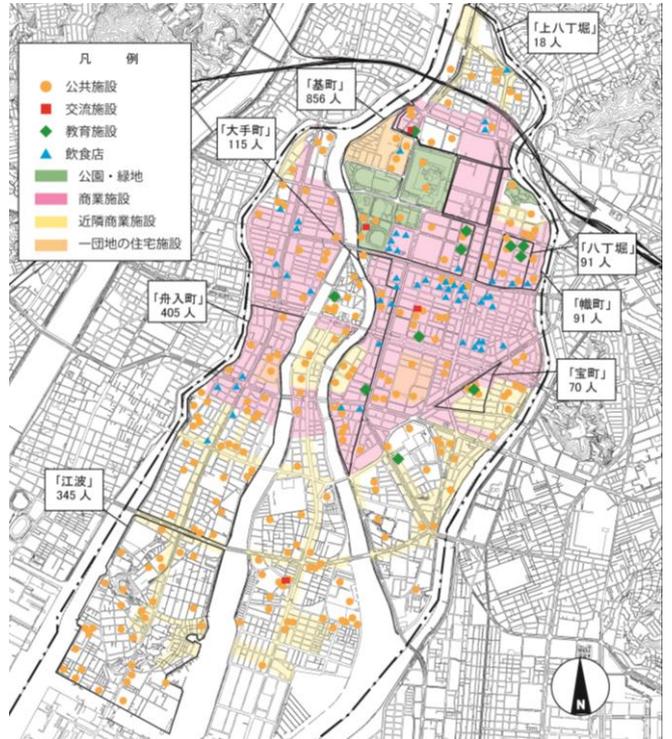


図-6 広島市中区の各施設及び外国人経営者による飲食店の分布図（囲みの人数は、町別外国人居住者数）

4. まとめ

広島市は、今後、国際化が進展し多様な国籍の外国人居住者の増加が見込まれる。外国人居住者も日本人居住者と同等の立場であるという認識が、必須である。

広島市の多文化共生の現状を見ると、①アジア系外国人の定住者が多く、中区に集中している。これは、公共施設の集中と公共交通機関の分かりやすさによるものである。②とすれば、今後、他の地域でも多文化共生を推進するのであれば、公共施設と公共交通の使いやすさがキーとなる。③アジア系の専門店や公民館などを利用した文化交流も行われており、周囲 1km 圏内に定住者の分布が認められた。広島が真の国際化を果たす為には、就住密着型の歩ける地域形成が求められる。

参考文献

- 1) 広島市市民局人権啓発課「広島市外国人市民生活・意識実態調査 報告書」2013
- 2) 山脇啓造「多文化共生社会の形成に向けて」明治大学 2002
- 3) 広島市「広島市多文化共生のまちづくり推進指針(改訂版)」2014